

こんぺいとう通信

2015年1月発行 第7号

発行 高山右近資料館「ギャラリー・ジュスト」館長 奈良献児

住所 石川県金沢市小将町3-23 076-222-0430

年頭の「あいさつ」

寒中お見舞い申し上げます。おかげさまでギャラリー・ジュストも新しい年を迎えることができました。本当にありがとうございました。

昨年の最も大きなイベントは石川県立美術館・広坂別館をお借りしまして、「南蛮寺のクリスマス」と題しましての展覧会でした。沢山の方々に協力いただきました。展覧会を終了させることができましたことを報告いたしますとともに、ご支援を心より感謝申し上げます。物心ともにお支えくださいました皆様、ありがとうございます。

お散歩の会「金沢城散策」

十月四日（土）には、五名の参加者で金沢城の散策を「お散歩の会」で実施いたしました。高山右近が心血注いで建設に協力した金

沢城には、そこかしこに高山右近の足跡を見ることができます。とりわけ、今回はその右近のキリシタンとしてのパースペクティブ（視点）に立つてということで、金沢城の構成を皆様と確認をさせていただきました。キリシタンとしての視点によって構造物が建てられていくとするなら、金沢城は加賀の防衛の中心地、行政の中心地、信仰の中心地として右近は考えていたのだと思います。そんなことを参加者の皆様にお話いたしました。



お勉強会「茶道とキリスト教」

十月二十五日（土）では、「茶道とキリスト教」と題しまして、茶道の中にあるキリスト教の影響について勉強会をいたしました。以前より、茶道の所作の中にはキリスト教の要素があると言われてきましたけれど、それはいったい何を指しているのかという点を皆様にお話いたしました。

お散歩の会「内惣構えを歩く」

十一月八日（土）にはお散歩の会として「内惣構えを歩く」と題して企画いたしました。参加者は三名です。この回にご参加くださいましたのは、何と！新舞踊の「孝藤流」のお家元とお弟子の方々が、お着物をおめしになつてご参加くださいました。高山右近の物語を取り入れておられるとのことで、とても熱心に歩いてくださいました。

「南蛮寺のクリスマス」

十二月十一日（木）から十五日（月）までの期間、石川県立美術館・広坂別館をお借りいたしました。今回の展覧会をいたしました。今回の展覧会のコンセプトは、「南蛮寺のクリスマス」です。金沢に北陸最初の南蛮寺、すなわち教会が建立される前には、おそらく高山右近の屋敷でミサが毎週営まれ、南蛮寺が建立されてからはそこで毎週のミサと毎年クリスマスが祝われたはずです。それがどのようなものであったのかをイメージを膨らませて発表した次第です。

これに合わせて仕覆作家である小林和映様の仕覆展も行いました。実は小林様は、今私たちが金沢市香林坊で開いている「金沢のしるこや」の前のオーナー



の奥様で、その関係から今回の共催となった次第です。

開催日の期間中はほぼ雪の降りしきる毎日ではありませんでしたが、とても沢山の方々がお越しくださいました。最終的には延べで三百十七人のご来会をいただくことができました。ギャラリーの半年分の来館者が五日間でお越しくくださった計算になります。

また、一日三回、「入門講座」と題しまして、短い高山右近の足跡をお話する機会を設けました。そこにはキリスト教の信仰を持つ



持たないは別に、また、プロテスタント教会、カトリック教会の区別なく沢山の方がお集いくださいました。この光景を高山右近が見ていたなら、どれだけ喜んだであろうかと思うような大変幸せな時間を持たせていただきました。

加えて、中日新聞さんや北國新聞さんなどの取材があったり、「石川テレビ」さんが取材に来てくださり、十一日の夕方のニュースで取り上げてもらいました。



ご支援ありがとうございました

ギャラリーの活動のために、多くの皆様のご支援をいただき、ここまで来ることができました。改めてご支援くださいました方々に感謝するとともに、昨年8月以降にご協力くださいました方々のお名前をご報告させていただきます。

石本孝子様、尾川津由様、影山雅一様、小林和映様、設楽玲子様、堤朋子様、中村均様、奈良玲子様、馬場要様、牧野知子様、松村健司様、三川栄一・威子様、三川茂様、密田好子様、安間花子様、匿名様

お名前が漏れておられる方がおられましたらご連絡ください。この度のギャラリー支援協力として頂戴いたしましたのは合計で9万2千円となります。その金額で、主に展示会用パネル作成費、燃料費、事務費として使用させていただきました。また続けてよろしくお願いたします。